

鍼灸と免疫

帝京平成大学 大学院健康科学研究科
久島 達也

鍼灸が免疫に作用する際の詳細な機序については未だ不明な点が多い。しかし、鍼灸が免疫系に有用な医療技術と考える鍼灸師は多く、鍼灸と免疫の関連性には高い関心が寄せられている。

我々は、病原微生物を認識しその侵入・定着・感染の過程を阻止する防御機構すなわち免疫系を備えている。また免疫系は、身体が精神的や肉体的ストレスに曝された際に神経系や内分泌系と連動してその恒常性を維持することから、ストレスに対する重要な機構でもある。そのストレスに対し身体は2つの応答系を有している。それらは、交感神経—副腎髄質 (SAM) 系と視床下部—下垂体—副腎皮質系である。特に SAM 系では、視床下部由来の交感神経機能活性を通じて副腎髄質から分泌されるカテコラミンが増加するとともに、粘膜免疫系の主要因子である分泌型免疫グロブリン A (sIgA) 量に増加がみられるというように、神経系のみならず免疫系もストレス応答に関与している。近年、鍼灸臨床の中には抗ストレス効果を目的としているものが少なくないことから、ストレス応答の視点から鍼灸刺激の免疫系への影響を考察することも重要ではないだろうか。

そのため本講演では、sIgA や自律神経系に焦点をあて、鍼灸と免疫について解説する。